

令和6年度使用  
小学校用教科用図書  
採択参考資料

算 数

発行者の番号・略称	教科書の記号・番号
2 東書	算数 112・113・212・213・312・313 412・413・512・513・612
4 大日本	算数 114・115・214・314・414・514 614
11 学図	算数 116・117・216・217・316・317 416・417・516・517・616・617
17 教出	算数 118・218・219・318・319・418 419・518・618
61 啓林館	算数 120・121・220・221・320・321 420・421・520・620
116 日文	算数 122・123・222・223・322・323 422・423・522・622

# 算 数

## I 教科用図書の調査研究に当たって

### 1 調査対象教科用図書

2 東書      4 大日本      11 学図      17 教出      61 啓林館      116 日文

### 2 調査研究の観点

- (1) 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することができる内容であるか。
- (2) 心身の発達段階に適応した数学的活動を行うことができるよう配慮されており、児童の生活や経験及び興味や関心に応じた内容であるか。
- (3) 各領域の構成・配列が適切であり、自主的な学習が進められるよう配慮がなされているか。
- (4) 用語、式、図、表、グラフ等の表記や表現が適切であり、学習内容の理解や問題の解決に役立つよう配慮されているか。

### 3 調査研究に対する基本的な考え方

- (1) 偏りのない公正な立場で調査研究を行っている。
- (2) 調査研究の資料を通して、教科用図書の特徴が明らかになるように配慮している。
- (3) 記述に当たっては、教科用図書の内容を具体的に取り上げるようにし、調査員の主観に陥らないようにしている。
- (4) 採択の関係者が、見やすく分かりやすいように配慮している。

## II 採択参考資料の見方について

1 各教科用図書の発行者の記載順序は、発行者の番号順としている。

2 各教科用図書の調査票は、記載順序に従って配列してある。

3 調査票の調査研究項目は、調査研究の観点についてまとめている。

(1) 概括的な調査研究…………… 観点(1)(3)(4)

① 総ページ数

② 領域別のページ構成

③ 数学的な表現に関わる内容、補充的・発展的な内容

④ デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

⑤ プログラミング教育に関わる箇所

(2) 数学的活動に関すること…………… 観点(1)(2)

① 問題解決の過程・他者の考えを解釈する場面について

② 数学的な見方・考え方の取り上げ方について

(3) 興味・関心を高めること・日常生活や他の学習への活用に関すること…………… 観点(2)

(4) 他学年や他領域との関連・自主的な学習を促す内容に関すること…………… 観点(3)

(5) 表記や表現に関すること…………… 観点(4)

① 式、図、言葉等の数学的な表現について

② ユニバーサルデザインに関する配慮について

1 概括的な調査研究

(1) 総ページ数 (補充的・発展的な内容、巻末資料等を含む)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
上巻	(①) 40	133	151	155	149	269	
下巻	(②) 129	117	127	151	145		
合計	169	250	278	306	294	269	1566

(2) 領域別のページ構成 (補充的・発展的な内容、巻末資料等を含まない)

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C 測定		D データの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
1年	118	78%	10	7%	17	11%	6	4%	151
2年	135	70%	19	10%	35	18%	4	2%	193
3年	135	66%	26	13%	29	14%	14	7%	204

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C 変化と関係		D データの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
4年	134	59%	70	31%	7	3%	16	7%	227
5年	78	35%	81	36%	43	20%	19	9%	221
6年	50	25%	60	31%	48	24%	39	20%	197

(3) 数学的な表現に関わる内容 (言葉や数、式、図、表、グラフ等を用いて考えを説明している場面)、補充的・発展的な内容

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
数学的な表現に関わる内容 (考えを説明している場面)	39	47	56	53	60	56
補充的・発展的な内容	9	35	48	82	55	57

(4) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
デジタルコンテンツ マーク	22	123	174	186	206	126	837

(5) プログラミング教育に関わる箇所

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
プログラミング教育	0	0	0	1	2	2	5

## 2 数学的活動に関すること

### (1) 問題解決の過程・他者の考えを解釈する場面について

- 第2学年以上の巻頭にある「学びのとびら」では、課題に対して見通しを持つことや、他者の考えを解釈すること等、問題解決に向けた学習の過程が示されている。
- 第2学年以上の「今日の深い学び」では、複数の数学的な表現を用いた考えが示され、他者がそれらを解釈する等の場面が設定されている。

### (2) 数学的な見方・考え方の取り上げ方について

- 第2学年以上では、数学的な見方・考え方を働かせている箇所がマークで示されている。
- 第2学年以上の単元末にある「つないでいこう算数の目」では、当該の単元で働かせた数学的な見方・考え方が示されている。

## 3 興味・関心を高めること・日常生活や他の学習への活用に関すること

- 多色刷りの写真やイラストが掲載されている。
- 単元の導入では、日常の事象や生活経験を基に、問題発見の場面がイラストで示されており、キャラクターの会話を通して問題が提示されている。
- 各学年の巻末に、操作活動用の切り取って使う教具が付けられている。
- 第1学年の「さんすうのうとをつくろう」、第2学年以上の「算数マイノートをつくろう」、「算数マイノートを学習に生かそう」では、ノートの記述の仕方が示されている。
- 各学年の単元末にある「いかしてみよう」、第4学年以上の「算数で読みとこう」では、学習したことを日常場面や他教科の学習に活用する問題が提示されている。

## 4 他学年や他領域との関連・自主的な学習を促す内容に関すること

- 第1学年の最初の2単元は、別冊A4判で中綴じになっており、教科書に直接書き込む構成になっている。
- 第2学年以上の巻末にある「ふりかえりコーナー」では、当該学年までの既習内容が示されている。
- 第2学年以上の単元末にある「たしかめよう」では、欄外に問題のめあてや問題に対応したページ番号・問題番号が示されている。
- 第2学年以上の巻末にある「新しい算数プラス」、単元末にある「おぼえているかな」では、補充的・発展的な学習の問題が提示されている。
- 第6学年の「算数のしあげ」では、領域ごとに学習内容の振り返りが設定され、対応する単元や学年が示されている。
- 第6学年の各単元では、中学校数学に関わる箇所に「中学の旗」マークが示され、巻末の「算数卒業旅行」では、算数と中学校数学とのつながりが示されている。

## 5 表記や表現に関すること

### (1) 式、図、言葉等の数学的な表現について

- ブロック、テープ図、数直線等が段階的に示されている。
- 第4学年以上の巻末にある「数直線の図を使って考えてみよう」では、図の表現方法や考え方が示されている。
- 問題解決の場面では、式、図、具体物、言葉等、複数の数学的な表現が関連付けて示されている。

### (2) ユニバーサルデザインに関する配慮について

- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。

1 概括的な調査研究

(1) 総ページ数 (補充的・発展的な内容、巻末資料等を含む)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
上巻	41	251	271	295	293	273	
下巻	141						
合計	182	251	271	295	293	273	1565

(2) 領域別のページ構成 (補充的・発展的な内容、巻末資料等を含まない)

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C 測定		D データの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
1年	128	80%	10	6%	19	12%	4	2%	161
2年	126	67%	17	9%	38	20%	7	4%	188
3年	143	67%	26	12%	27	13%	17	8%	213

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C 変化と関係		D データの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
4年	124	54%	69	30%	17	8%	18	8%	228
5年	76	35%	83	38%	38	17%	21	10%	218
6年	52	31%	50	30%	34	20%	32	19%	168

(3) 数学的な表現に関わる内容 (言葉や数、式、図、表、グラフ等を用いて考えを説明している場面)、補充的・発展的な内容

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
数学的な表現に関わる内容 (考えを説明している場面)	31	37	37	43	58	37
補充的・発展的な内容	20	37	36	50	53	89

(4) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
デジタルコンテンツ マーク	94	125	170	155	198	143	885

(5) プログラミング教育に関わる箇所

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
プログラミング教育	2	4	4	4	4	5	23

## 2 数学的活動に関すること

### (1) 問題解決の過程・他者の考えを解釈する場面について

- 第2学年以上の巻頭にある「算数の学び方」では、課題に対して見通しを持つことや、他者の考えを解釈すること等、問題解決に向けた学習の過程が示されている。
- 各学年の「じっくり深く学び合おう」では、複数の数学的な表現を用いた考えが示され、他者がそれらを解釈する等の場面が設定されている。

### (2) 数学的な見方・考え方の取り上げ方について

- 数学的な見方・考え方を「ひらめきアイテム」とし、それらを働かせている箇所がマークで示されている。
- 第2学年以上の巻頭にある「算数の大切な考え方」では、当該学年で働かせていきたい数学的な見方・考え方が示されている。

## 3 興味・関心を高めること・日常生活や他の学習への活用に関すること

- 多色刷りの写真やイラストが掲載されている。
- 単元の導入では、日常の事象や生活経験を基に、問題発見の場面がイラストで示されており、キャラクターの会話を通して問題が提示されている。
- 各学年の巻末に、操作活動用の切り取って使う教具が付けられている。
- 第1学年の「ノートにまとめよう」、第2学年以上の「ノートのかき方の例」では、ノートの記述の仕方が示されている。
- 各学年の単元末にある「算数たまたまてこ」、第1学年から第3学年の「おうちで算数」、第3学年から第6学年の「ふくろう先生になるほど算数教室」では、学習したことを日常生活や他教科の学習に活用する問題が提示されている。

## 4 他学年や他領域との関連・自主的な学習を促す内容に関すること

- 第1学年の最初の3単元は、別冊A4判で中綴じになっており、教科書に直接書き込む構成になっている。
- 各学年の巻頭にある「算数の大切な考え方」では、当該学年で学習する内容と関連した既習内容が示されている。
- 第2学年以上の単元末にある「たしかめ問題」では、問題に対応したページ番号・問題番号が示されている。
- 第2学年以上の巻末にある「プラス・ワン」や、全学年の単元末にある「たしかめ問題」では、補充的・発展的な問題が提示されている。
- 第6学年の「6年間のまとめ」では、領域ごとに学習内容の振り返りが設定され、対応する単元やページ番号が示されている。
- 第5、6学年の巻末では、算数と中学校数学とのつながりが示されている。

## 5 表記や表現に関すること

### (1) 式、図、言葉等の数学的な表現について

- ブロック、テープ図、数直線等が段階的に示されている。
- 第4学年以上の巻末にある「数直線図のかき方」では、図の表現方法や考え方が示されている。
- 問題解決の場面では、式、図、具体物、言葉等、複数の数学的な表現が関連付けて示されている。

### (2) ユニバーサルデザインに関する配慮について

- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が取り入れられている。

1 概括的な調査研究

(1) 総ページ数 (補充的・発展的な内容、巻末資料等を含む)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
上巻	99	165	149	158	174	260	
下巻	106	141	170	181	180		
別冊						48 (中学校へのかけ橋)	
合計	205	306	319	339	354	308	1831

(2) 領域別のページ構成 (補充的・発展的な内容、巻末資料等を含まない)

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C 測定		D データの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
1年	123	82%	8	5%	15	10%	4	3%	150
2年	154	63%	25	10%	53	22%	12	5%	244
3年	156	63%	34	14%	40	16%	16	7%	246

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C 変化と関係		D データの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
4年	146	56%	79	30%	13	5%	23	9%	261
5年	91	34%	94	36%	55	21%	24	9%	264
6年	62	33%	59	31%	35	19%	32	17%	188

(3) 数学的な表現に関わる内容 (言葉や数、式、図、表、グラフ等を用いて考えを説明している場面)、補充的・発展的な内容

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
数学的な表現に関わる内容 (考えを説明している場面)	24	42	38	37	64	42
補充的・発展的な内容	33	42	48	50	54	87

(4) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
デジタルコンテンツ マーク	67	61	102	86	92	57	465

(5) プログラミング教育に関わる箇所

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
プログラミング教育	2	2	2	2	2	2	12

## 2 数学的活動に関すること

### (1) 問題解決の過程・他者の考えを解釈する場面について

- 各学年の「ふりかえろう つなげよう」では、既習内容を振り返り次の学習へつなげる学習の課程が示されている。
- 第2学年以上では、複数の数学的な表現を用いた考えが示され、それらの解釈に向けた問題場面が設定されている。

### (2) 数学的な見方・考え方の取り上げ方について

- 数学的な見方・考え方を働かせている箇所がキャラクターで示されている。
- 各学年の巻末では、該当学年で働かせた数学的な見方・考え方がキャラクターと関連付けて示されている。

## 3 興味・関心を高めること・日常生活や他の学習への活用に関すること

- 多色刷りの写真やイラストが掲載されている。
- 単元の導入では、日常の事象や生活経験を基に、問題発見の場面がイラストで示されており、キャラクターの会話を通して問題が提示されている。
- 各学年の巻末に、操作活動用の切り取って使う教具が付けられている。
- 第2学年以上の「ノート名人になろう」では、ノートの記述の仕方が示されている。
- 各学年の「算数を使って」では、学習したことを日常場面や他教科の学習に活用する問題が提示されている。

## 4 他学年や他領域との関連に関わること・自主的な学習を促す内容に関すること

- 第1学年の巻頭は折込になっており、教科書に直接書き込む構成になっている。
- 第2学年以上の巻頭には、当該学年までの既習内容に関連した見方・考え方が、キャラクターに関連付けて示されている。
- 各学年の単元末にある「できるようになったこと」では、対応した「ほじゅう問題」等のページ番号が示されている。
- 第2学年以上の単元末にある「まなびをいかそう」、各学年の巻末にある「ほじゅう問題」では、補充的・発展的な問題が提示されている。
- 第6学年の巻末にある「算数のまとめ」では、領域ごとに学習内容の振り返りが設定され、当該する学年が示されている。
- 第6学年別冊の「中学校へのかけ橋」では、算数と中学校数学とのつながりが示されている。

## 5 表記や表現に関すること

### (1) 式、図、言葉等の数学的な表現について

- ブロック、テープ図、数直線等が段階的に示されている。
- 第3学年以上の「図を使って考えよう」「図や表を使って考えよう」では、図の表現方法や考え方が示されている。
- 問題解決の場面では、式、図、具体物、言葉等、複数の数学的な表現が関連付けて示されている。

### (2) ユニバーサルデザインに関する配慮について

- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が入り入れられている。



[調査票] 【17 教出】 (小学校 算数)

1 概括的な調査研究

(1) 総ページ数 (補足的・発展的な内容、巻末資料等を含む)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
上巻	188	153	160	178	312	290	
下巻		128	146	176			
合計	188	281	306	354	312	290	1731

(2) 領域別のページ構成 (補足的・発展的な内容、巻末資料等を含まない)

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C 測定		D データの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
1年	130	77%	14	8%	21	13%	4	2%	169
2年	130	66%	22	11%	40	20%	6	3%	198
3年	141	64%	28	13%	33	15%	17	8%	219

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C 変化と関係		D データの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
4年	130	53%	73	29%	17	7%	28	11%	248
5年	75	33%	86	38%	45	20%	21	9%	227
6年	51	29%	58	34%	34	20%	30	17%	173

(3) 数学的な表現に関わる内容 (言葉や数、式、図、表、グラフ等を用いて考えを説明している場面)、補足的・発展的な内容

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
数学的な表現に関わる内容 (考えを説明している場面)	24	25	35	37	53	24
補足的・発展的な内容	22	63	66	87	66	103

(4) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
デジタルコンテンツ マーク	10	66	97	127	106	80	486

(5) プログラミング教育に関わる箇所

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
プログラミング教育	1	1	0	1	2	0	5

## 2 数学的活動に関すること

### (1) 問題解決の過程・他者の考えを解釈する場面について

- 第2学年以上の巻頭にある「みんなで算数をはじめよう！」では、課題に対して見通しを持つことや、他者の考えを解釈すること等、問題解決に向けた学習の過程が示されている。
- 単元内で板書のイラストを提示している箇所では、複数の数学的な表現を用いた考えが示され、他者がそれらを解釈する等の場面が設定されている。

### (2) 数学的な見方・考え方の取り上げ方について

- 第2学年以上では、数学的な見方・考え方を働かせて、当該の単元の前半と後半をつなげる箇所が「つながるミカタ」として示されている。
- 第2学年以上の巻頭にある「算数で使いたい見方・考え方」では、当該学年までに働かせてきた数学的な見方・考え方について示されている。

## 3 興味・関心を高めること・日常生活や他の学習への活用に関すること

- 多色刷りの写真やイラストが掲載されている。
- 単元の導入では、日常の事象や生活経験、既習内容を基に、問題発見の場面がイラストや写真で示されており、キャラクターの会話を通して問題が提示されている。
- 第2学年以上の巻末に、操作活動用の切り取って使う教具が付けられている。
- 第2学年以上の「友だちのノートを見てみよう」では、ノートの記述の仕方が示されている。
- 第2学年以上の単元末にある「学んだことを使おう」、第4学年以上の「広がる算数」では、学習したことを日常場面や他教科の学習に活用する問題が提示されている。

## 4 他学年や他領域との関連・自主的な学習を促す内容に関すること

- 第1学年の各単元の導入には、就学前の経験や日常場面とつながる「きっかけ」ページが設定されている。
- 第2学年以上の巻末にある「学びのマップ」では、当該学年までの既習内容と該当学年の学習のつながりが単元名で示されている。
- 第2学年以上の単元末にある「まとめ」では、問題に対応するページ番号と問題番号が示されている。
- 第2学年以上の巻末にある「自分で取り組むページ」「ステップアップ算数」では、補充的・発展的な問題が提示されている。
- 第6学年の「算数のまとめ」では、領域ごとに学習内容の振り返りが設定され、対応する内容が「学びのマップ」と関連付けて示されている。
- 第6学年の巻末にある「Let's Try」では、算数と中学校数学とのつながりが示されている。

## 5 表記や表現に関すること

### (1) 式、図、言葉等の数学的な表現について

- ブロック、テープ図、数直線等が段階的に示されている。
- 第2学年以上の巻末にある「テープ図のかき方」「線分図のかき方」「数直線のかき方」では、図の表現方法や考え方が示されている。
- 問題解決の場面では、式、図、具体物、言葉等、複数の数学的な表現が関連付けて示されている。

### (2) ユニバーサルデザインに関する配慮について

- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点を取り入れられている。

1 概括的な調査研究

(1) 総ページ数（補充的・発展的な内容、巻末資料等を含む）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
上巻	48	136	147	161	281	271	
下巻	144	135	129	132			
合計	192	271	276	293	281	271	1584

(2) 領域別のページ構成（補充的・発展的な内容、巻末資料等を含まない）

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C 測定		D データの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
1年	120	81%	13	9%	13	9%	2	1%	148
2年	118	63%	24	13%	37	20%	8	4%	187
3年	132	67%	23	12%	26	13%	16	8%	197

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C 変化と関係		D データの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
4年	107	51%	66	31%	15	7%	23	11%	211
5年	68	33%	75	36%	46	22%	19	9%	208
6年	43	25%	56	33%	40	24%	30	18%	169

(3) 数学的な表現に関わる内容（言葉や数、式、図、表、グラフ等を用いて考えを説明している場面）、補充的・発展的な内容

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
数学的な表現に関わる内容 (考えを説明している場面)	35	54	43	54	68	35
補充的・発展的な内容	33	70	65	69	62	89

(4) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
デジタルコンテンツ マーク	80	139	141	138	132	94	724

(5) プログラミング教育に関わる箇所

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
プログラミング教育	2	2	2	2	2	2	12

## 2 数学的活動に関すること

### (1) 問題解決の過程・他者の考えを解釈する場面について

- 第2学年以上の巻頭にある「算数の学習の進め方」では、課題に対して見通しを持つことや、他者の考えを解釈すること等、問題解決に向けた学習の過程が示されている。
- 問題解決の場面において、複数の数学的な表現を用いた考えが示され、他者がそれらを解釈する等の場面が設定されている。

### (2) 数学的な見方・考え方の取り上げ方について

- 第2学年以上では、数学的な見方・考え方を働かせている箇所がマーカーを付して示されている。
- 第2学年以上の上巻にある「算数で使いたい考えの進め方」では、当該学年までに働かせてきた数学的な見方・考え方について示されている。

## 3 興味・関心を高めること・日常生活や他の学習への活用に関すること

- 多色刷りの写真やイラストが掲載されている。
- 単元の導入では、日常の事象や生活経験を基に、問題発見の場面が写真やイラストで示されており、キャラクターの会話を通して課題が提示されている。
- 第2学年以上の巻末に、操作活動用の切り取って使う教具が付けられている。
- 第2学年以上の「算数ノートをつくろう」では、ノートの記述の仕方が示されている。
- 各学年の「学びをいかそう」、第3学年以上の「わくわくSDGs」では、学習したことを日常場面や他教科の学習に活用する問題が提示されている。

## 4 他学年や他領域との関連・自主的な学習を促す内容に関すること

- 第1学年の最初の4単元は、別冊A4判で中綴じになっており、教科書に直接書き込む構成になっている。
- 第2学年以上の巻末にある「学びをつなげよう」では、当該学年までの既習内容が示されている。
- 第2学年以上の単元末にある「学びのまとめ」では、欄外に問題のめあてや問題に対応したページ番号が示されている。
- 第2学年以上の巻末にある「じゅんび」「もっと練習」では、補充的・発展的な問題が提示されている。
- 第6学年の「6年のまとめ」では、領域ごとに学習内容の振り返りが設定されている。
- 第6学年の単元末にある「学びのまとめ」では、中学校数学に関わる箇所に「数学へのとびら」マークが示されている。

## 5 表記や表現に関すること

### (1) 式、図、言葉等の数学的な表現について

- ブロック、テープ図、数直線等が段階的に示されている。
- 第5学年以上の巻末にある「図のかき方」では、図の表現方法や考え方が示されている。
- 問題解決の場面では、式、図、具体物、言葉等、複数の数学的な表現が関連付けて示されている。

### (2) ユニバーサルデザインに関する配慮について

- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点を取り入れられている。

1 概括的な調査研究

(1) 総ページ数 (補充的・発展的な内容、巻末資料等を含む)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
上巻	46	161	170	167	325	295	
下巻	147	140	147	171			
合計	193	301	317	338	325	295	1769

(2) 領域別のページ構成 (補充的・発展的な内容、巻末資料等を含まない)

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C 測定		D データの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
1年	131	82%	9	6%	16	10%	4	2%	160
2年	136	65%	24	12%	42	20%	6	3%	208
3年	142	63%	30	13%	34	15%	20	9%	226

	領域別の構成								
	A 数と計算		B 図形		C 変化と関係		D データの活用		合計
	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁	割合	頁
4年	125	54%	69	30%	18	7%	20	9%	232
5年	74	32%	90	39%	44	19%	22	10%	230
6年	46	26%	56	31%	37	21%	39	22%	178

(3) 数学的な表現に関わる内容 (言葉や数、式、図、表、グラフ等を用いて考えを説明している場面)、補充的・発展的な内容

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
数学的な表現に関わる内容 (考えを説明している場面)	28	29	39	50	55	43
補充的・発展的な内容	11	72	69	79	80	108

(4) デジタルコンテンツにつながる二次元コードの数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
デジタルコンテンツ マーク	76	141	169	159	155	114	814

(5) プログラミング教育に関わる箇所

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
プログラミング教育	1	2	2	2	5	2	14

## 2 数学的活動に関すること

### (1) 問題解決の過程・他者の考えを解釈する場面について

- 第2学年以上の巻末にある「学び方ガイド」では、課題に対して見通しを持つことや、他者の考えを解釈すること等、問題解決に向けた学習の過程が示されている。
- 各学年の「自分で みんなで」では、複数の数学的な表現を用いた考えが示され、他者がそれらを解釈する等の場面が設定されている。

### (2) 数学的な見方・考え方の取り上げ方について

- 第2学年以上では、見通しを立てたり、筋道立てて考えたりするための着眼点が「見方・考え方」マークで示されている。
- 第2学年以上の巻末にある「算数で使いたい見方・考え方」では、当該学年で働かせたい数学的な見方・考え方が示されている。

## 3 興味・関心を高めること・日常生活や他の学習への活用に関すること

- 多色刷りの写真やイラストが掲載されている。
- 単元の導入では、日常の事象や生活経験を基に、問題発見の場面がイラストで示されたり、学習に関連した活動が設定されたりしており、キャラクターの会話を通して問題が提示されている。
- 各学年の巻末に、操作活動用の切り取って使う教具が付けられている。
- 各学年の「算数ノートをつくろう」では、ノートの記述の仕方が示されている。
- 各学年の「使ってみよう」や第2学年以上の「算数ジャンプ」では、学習したことを日常場面や他教科の学習に活用する問題が提示されている。

## 4 他学年や他領域との関連・自主的な学習を促す内容に関すること

- 第1学年の最初の3単元は、別冊B5判で中綴じになっており、教科書に直接書き込む構成になっている。
- 第2学年以上の巻末にある「〇年までに学習したこと」では、当該学年の既習内容が示されている。
- 単元末にある「たしかめよう」では、問題に対応したページ番号が示されている。
- 第2学年以上の巻末にある「算数マイトライ しっかりチェック、ぐっとチャレンジ、もっとジャンプ」では、補充的・発展的な問題が提示されている。
- 第6学年の「6年間のまとめ」では、領域ごとに学習内容の振り返りが設定されている。
- 第6学年の巻末にある「もうすぐ中学生」では、算数と中学校数学とのつながりが示されている。

## 5 表記や表現に関すること

### (1) 式、図、言葉等の数学的な表現について

- ブロック、テープ図、数直線等が段階的に示されている。
- 第4学年以上の巻末にある「いろいろな表し方をつなげよう」「図を使って表そう」「図の見方をたしかめよう」では、図の表現方法や考え方が示されている。
- 問題解決の場面では、式、図、具体物、言葉等、複数の数学的な表現が関連付けて示されている。

### (2) ユニバーサルデザインに関する配慮について

- 書体や色使いやレイアウト等に、ユニバーサルデザインの視点が入り入れられている。